



第1回 自転車等施策検討協議会



自転車を正しく使って
みんなが**快適に**過ごせるまちへ

平成26年10月22日(水)
横浜市

I 自転車総合計画の目的

- 自転車は人にも地球にも優しい便利な乗り物で、通勤や通学、買い物、サイクリングなど様々な場面で利用されています。
- 一方で、便利さゆえに手軽に使われる結果、交通ルールを守らない自転車も増えており、歩行者、クルマ、ルールを守っている自転車利用者が不快な思いや危険を感じる場合がある等、様々な問題も顕在化しています。
- 横浜市では、自転車を正しく使える環境を整え、利用する人は当たり前交通ルールを守ることで、自転車が暮らしに溶け込んだ、**みんなが快適にすごせるまち**の実現を目指します。

目標イメージ 自転車を正しく使って **みんなが快適に** すごせるまちへ

危険を感じる事のない安全・安心なまち

自転車の交通ルールが守られないと…

- ▼ 歩道走行により歩行者に危険が及ぶ
- ▼ 周りの人々が安心して通行できない
- ▼ 交通事故につながる

居心地のよさが感じられる景観・環境の良いまち

自転車が適切に使われないと…

- ▼ 駐輪場所には限りがあり放置に繋がる
- ▼ 歩行者やクルマと錯綜する
- ▼ 短時間だと、思わず歩道に停めてしまう

気楽に様々な活動ができる便利なまち

自転車を使おうとすると…

- ▼ 買い物等に使える駐輪場がない
- ▼ 観光で気軽に使えるサービスがない
- ▼ 快適に利用できる通行空間が不足

快適なまちとは

自転車の問題

横浜市のこれまでの自転車に関する取り組み

■ 自転車マナーアップキャンペーン ■

- 市内プロスポーツチームの選手や市内放送局のアナウンサーなど、発信力の高い方々と連携しながら、自転車を利用する方々に、自転車マナーアップのメッセージを発信するイベントやPRを展開しています。



■ ベイバイク (コミュニティサイクル*) ■

- 街なかで自分の自転車を持ち込まなくても、誰でも気軽に自転車を利用できる交通環境の提供に向けて、これまでの社会実験の成果を踏まえ、本年度より横浜都心部で「ベイバイク」を本格導入をしています。

コミュニティサイクルとは

- 安価な料金で、都市部の交通手段として自転車を提供するもの。
- 一定のエリアで複数の貸出拠点を設置し、どのポートでも貸出、返却が可能なシステム

※ベイバイクホームページより引用

■ 駐輪施設の整備と放置自転車の撤去 ■

- 鉄道駅を中心に自転車等駐車場の整備を進め、現時点で15万台分(民間含む)の駐輪施設を確保しています。
- 合わせて放置自転車の撤去を積極的に実施し、まちなかでの放置自転車の軽減に努めています。



■ 自転車ネットワークの整備 ■

- 自転車の利用しやすい環境を整えるため、「横浜自転車道ネットワーク整備指針」を策定しました。
- 整備手法としては、車道内での分離や歩道内での白線や啓発帯による分離等を行ってきました。

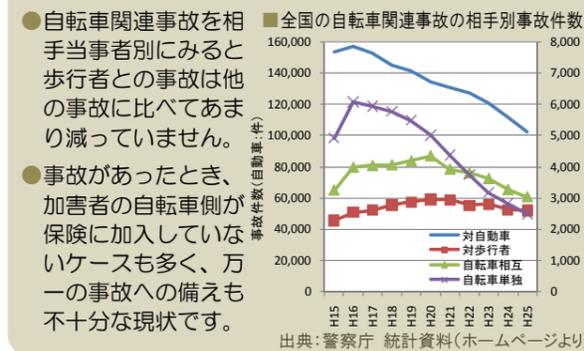


II 自転車に関する課題

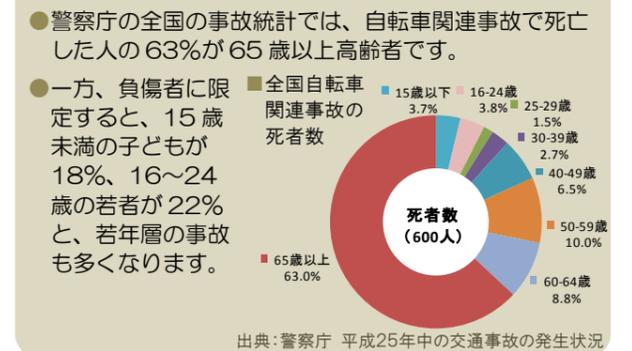
安全・安心 不適切な自転車利用により、「歩行者が不安を感じる」現状

- 自転車は、定められた交通ルールを正しく守ることで、初めて歩行者の安全を守り、他の自転車やクルマ、バスと共存可能となり、「安全・安心」な交通手段となります。
- しかし現状では、歩行者の安全のために設けられている歩道での、車両である自転車の危険走行、携帯電話を操作しながらの運転等、交通ルールを守らない自転車が、まちの「安全・安心」を脅かしています。

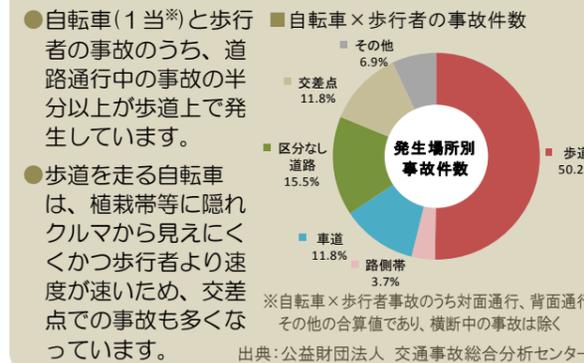
課題1 依然多い歩行者と自転車の事故



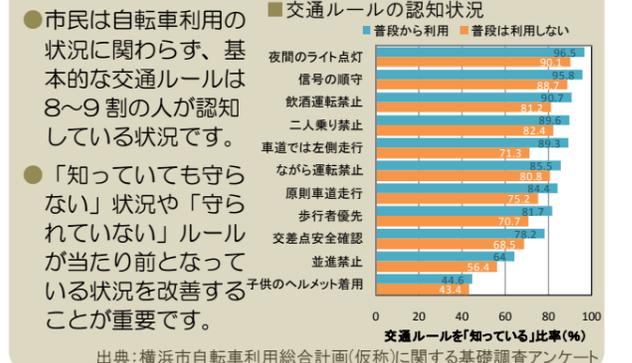
課題2 高齢者、子どもの比率が高い自転車の事故



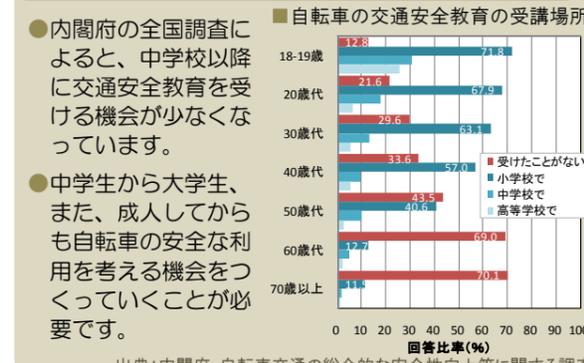
課題3 危険な自転車の歩道走行



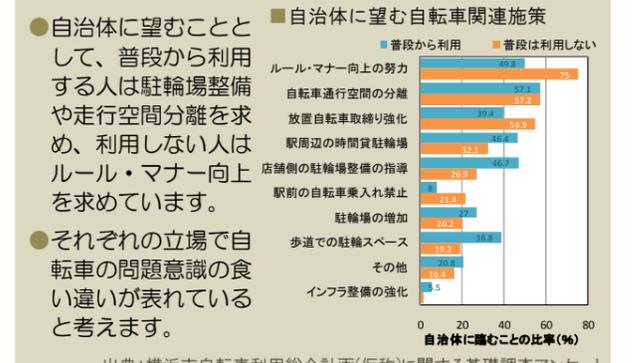
課題4 交通ルールを認知しつつ、守らない現状



課題5 自転車の交通安全を知る機会の不足



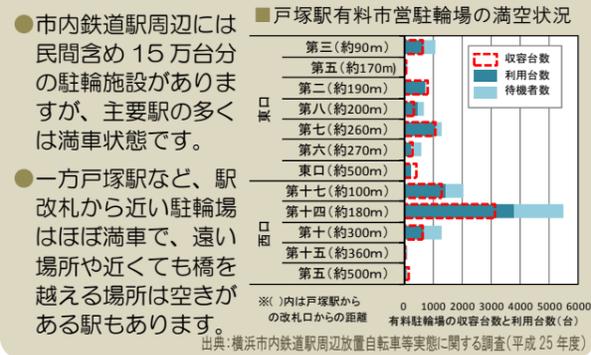
課題6 自転車・歩行者・クルマの相互理解の欠如



景観・環境 不適切な自転車利用が「まちの景観や環境を悪化させる」現状

- 自転車は、交通ルールを守って**通行すべきところを通行し、駐輪が認められた場所に適切に駐車**して初めて、歩行者やクルマと共存し、まちの環境や景観にあった使い方になると考えます。
- しかし、自転車駐輪場や通行空間の整備は、**多額の費用や土地などの制約**があり、必ずしも使いやすい施設を十分に提供できない状況です。そこに自転車が大量に集まる結果、路上に止めたり、ルールを守らず走るなど、**まちの景観や道路の通行環境を悪化**させてしまう不適切な利用が増えています。

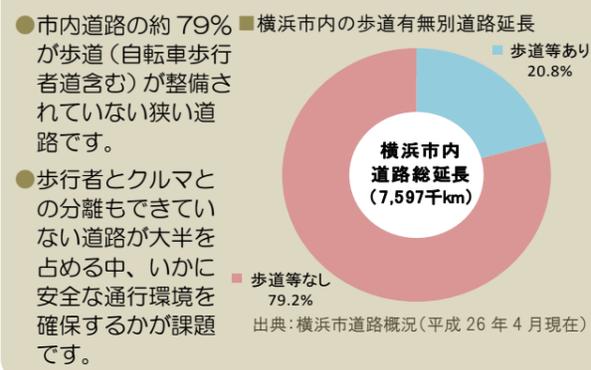
課題1 人の集まる駅の駐輪場の多くは満車状態



課題2 買い物等での利用に適した駐輪場の不足



課題3 歩道も作れない狭い道路が大半を占める現状



課題4 人通りの多い時間や場所での自転車の混入



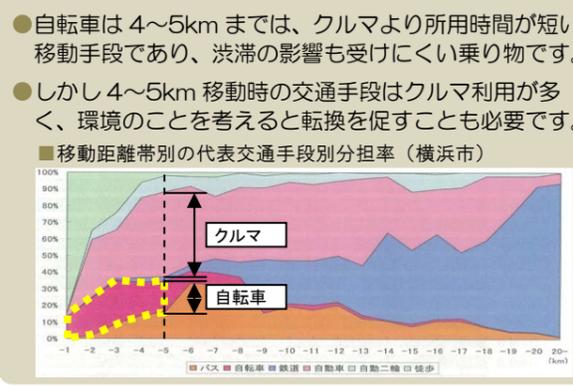
課題5 将来動向を見据えた効率的な環境整備



便利 多様化する自転車の「利用ニーズに対応しきれていない」現状

- これまでは、観光に気軽に使える自転車サービスが無かったり、スポーツとして楽しみたくても走る場所が無かったり、買い物に出かけても停める場所が不足していたり、**様々な自転車の利用ニーズに対して、十分に対応できていない状況がありました。**
- 買い物や観光、スポーツ、健康づくりなど様々なシーンで**便利で快適に自転車が使えよう、制度や運営手法などの課題を整理し、改善**することが求められます。

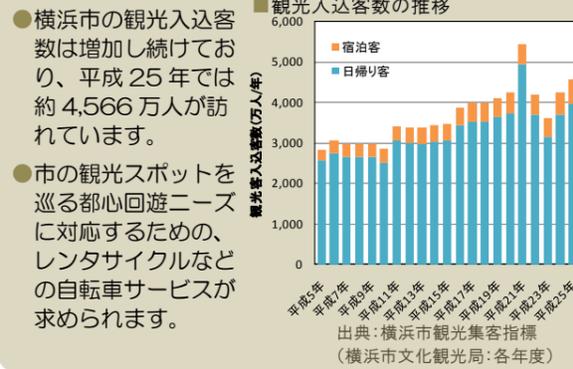
課題1 自転車が便利な距離でもクルマが利用される現状



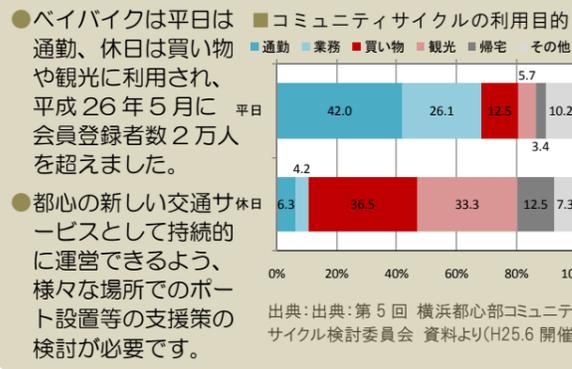
課題2 従来と異なる自転車の使い方・楽しみ方への対応不足



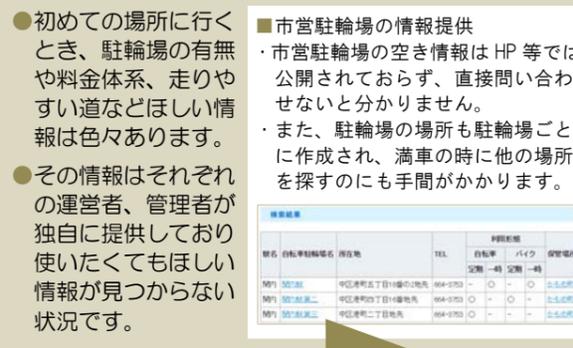
課題3 観光での回遊ニーズへの対応不足



課題4 自転車シェアリングの浸透と発展



課題5 自転車に関する情報が得にくい状況



Ⅲ 課題の改善に向けた理念と基本方針（案）

- 快適なまちを実現するための3つの視点に対して、自転車利用の理念（案）や施策の基本方針（案）を以下に整理します。この考え方に従い、自転車総合計画の施策体系を構築します。

自転車に関する課題

安全・安心の課題

- ①依然多い歩行者と自転車の事故
- ②高齢者、子どもの比率が高い自転車の事故
- ③危険な自転車の歩道走行
- ④交通ルールを認知しつつ、守らない現状
- ⑤自転車の交通安全を知る機会の不足
- ⑥自転車・歩行者・クルマの相互理解の欠如

景観・環境の課題

- ①人の集まる駅の駐輪場の多くは満車状態
- ②買い物等での利用に適した駐輪場の不足
- ③歩道も作れない狭い道路が大半を占める現状
- ④人通りの多い時間や場所での自転車の混入
- ⑤将来動向を見据えた効率的な環境整備

便利の課題

- ①自転車が便利な距離でもクルマが利用される現状
- ②従来と異なる自転車の使い方・楽しみ方への対応不足
- ③観光での回遊ニーズへの対応不足
- ④自転車シェアリングの浸透と発展
- ⑤自転車に関する情報が得にくい状況
- ⑥買い物などお出かけに対応できない料金制度

自転車を正しく使って みんなが快適に過ごせるまちへ

自転車利用環境の理念（案）

ルールを守って【安全に使える】

- 横浜をより安心・安全なまちにするためには、歩行者の安全を確保しつつ、自転車とクルマが共存できるよう、**それぞれが交通ルールを守る**ことが不可欠です。
- 自転車が、歩行者、クルマにも安全であるために、自転車に乗る人が、「自転車は車両」という正しい知識を持ち「**自転車**」を**安全に使うための交通ルールが身に付く仕掛けづくり**と、**自転車を安全に使えるみちづくり**を進めていきます。

まちに合わせて【かしこく使える】

- 行政が自転車駐輪場や通行空間の確保に努力する一方で、自転車を使う側も、歩いたり、バスを上手に使ったり、停める場所があるお店を選んだりするなど、**少し使い方を変える**ことも大切です。
- 徒歩、公共交通、自転車等を上手に使い分けられるような、「**まちに合わせたかっこいい使い方**」が**選べる交通の環境づくりと意識づくり**を進めていきます。

ハマの風を感じて【楽しく使える】

- 人にも自然にも良い、自転車の良いところを活かし、まちで暮らす人、訪れた人みんなが、**快適に自転車を使えるように、人も、まちも変わっていく**ことが大切です。
- さわやかな浜風が感じられる自転車を、街巡りに便利に適した乗り物として、自転車とまちをつなげるイベントや、シェアリングサービスなど、「**横浜をもっと楽しくする使い方**」の**しくみづくり**を進めていきます。

施策の基本方針（案）

まもる

守るための正しい知識

- 子どもから高齢者まで全ての年代が「**自転車は車両である**」という正しい知識を持ち、クルマのことも考え、歩行者を守る「**交通ルール**」を身に付け、**自然と実践していく**ための取り組み。

はしる

安全・快適な通行空間

- 車道左側通行などの交通ルールを守ることを前提に、**誰もが安全・快適に道路を通行できる環境**を創るための、歩行者やクルマと共存できる道路構造や、自転車ネットワーク整備などの**通行空間を形成**する取り組み。

とめる

使い方に応じた駐輪環境

- 街なかの放置自転車の解消に向けた、多様な駐輪ニーズに対応できる**受け皿の整備**と、駅等に集中する**駐車需要を適度に分散**させるための料金やサービス設定による、**需給バランスのとれた駐輪環境**を実現する取り組み。

いかす

自転車を適切に活かす仕掛け

- 交通手段としての便利さを持ち、乗ること自体が**健康づくりに繋がり環境にもよい**自転車を、まちの状況に合わせて**もっと便利に楽しく**使えるようにするための、新しい自転車サービスなどの**自転車を活かす**ための仕掛けづくり。

■ 利用シーン別自転車利用のポリシーと施策例(たたき台)

自転車利用の目的	移動するための手段		楽しみのための手段	
利用シーン	駅から電車に乗る	目的施設に行く		
		通勤・通学	お出かけ (買い物、通院、業務)	
まもる	<p>安全・安心の確保を目的とした ルールを守った利用</p>			<p>観光・健康・サイクリング・ ポタリング・レジャーなど</p>
	<p>「正しい交通ルール」「必要な情報」の伝達／周知／実践</p>			
はしる ・ とめる	<p>供給に合わせた 利用増加の抑制</p>	<p>需給バランスの確保を前提とした 適切な利用の促進</p>		<p>利用の促進</p>
	<p>土地利用状況を考慮した駐輪施設の提供 放置自転車対策の充実 公共交通の充実、利便性向上</p>	<p>社員、学生のための 駐輪施設を確保</p>	<p>店舗等での顧客への 駐輪施設を確保</p>	
いかす	<p>メリット（環境保全、健康増進等）を活かすことを目的とした 便利な手段としての利用</p>			<p>快適で楽しい利用</p>
	<p>自転車通勤・自転車通学への転換 ベイバイクの活用</p>	<p>ベイバイク・レンタサイクル 自転車利用に必要な適切な情報提供</p>		
<p>過度なクルマ利用から徒歩・自転車・公共交通など 適切な交通手段の利用への転換</p>				